

学生への質問紙調査による在宅看護論実習の 授業方法の課題

— 訪問看護ステーションでの実習に焦点をあてて —

上 條 育 代*・吉 田 恵 理・細 田 せ い 子

Solution for Teaching Methods in Clinical Training of Home Health
Care Nursing Through the Questionnaire Survey to their Students

— Focusing on Practice of Visiting Nurse Stations —

Ikuyo KAMIJO*, Eri YOSHIDA and Seiko HOSODA

要旨：本学科における在宅看護論実習の授業方法は、実習目標を達成するための実習に関わる事前オリエンテーション、訪問看護ステーション実習、グループワーク、個別ワークにより構成されている。これらが学生にとってより効果的なものとなるよう課題を捉え、必要な改善点を見出すことを目的に学生への授業改善アンケートを実施した。その結果①事前オリエンテーションは、学生の主体的な学習活動を促し実習の動機づけにつながっているが、学生個々の学習に対する取り組み姿勢や意欲を踏まえた指導が必要である、②訪問看護ステーション実習では、多様な場面から実習目標に関わる事柄を学び満足感を得ているが、1人配置の実習であるため不安感や緊張感は避けがたく、折々に学生個々への指導助言が必要である、③グループワークでは、学生個々が見学した事象を広い視点から捉えるきっかけとして有意義である。メンバーが目的と主体性を持つことが大切である、④個別ワークの事前学習は実習で体験することによって知識の定着と他の実習へ関連づけが期待できる。事例の看護計画課題では、療養者の様々な情報を収集する必要性や社会資源などの知識の大切さに気付く働きかけが大切であることが考えられた。

Key words：在宅看護論実習 (Clinical Training of Home Health Care Nursing), 授業方法 (Teaching Methods), 訪問看護ステーション (Visiting Nurse Stations), 看護学生 (Nursing Students)

はじめに

在宅看護論は、平成9年に基礎看護教育においてカリキュラムに位置づけられ、平成19年のカリキュラム改正で「在宅看護論は地域で生活しながら療養する人々とその家族を理解し、在宅での看護実践の基礎を学ぶ内容とする」¹⁾ことを求められている。

全国的にみると在宅看護臨地実習は、主に

訪問看護ステーションにて受け入れられ、訪問看護の同行見学が行われている²⁾。訪問看護は、施設内看護とは異なり、利用者の住まいに客人として訪問し、利用者を受け入れられることから看護ケアが始まる。清水は、「学生は見知らぬ家族や家庭環境にはじめて足を踏み入れ適応していくとともに療養者や家族に提供する訪問看護の実際を学ぶ機会を最大限いかせるように、事前に十分な準備を

2013年1月30日受付；2013年3月21日受理

*長野県立病院機構本部事務局看護学校準備室

行う必要がある³⁾としている。

在宅看護論実習の授業方法は、在宅療養者への看護ケアの知識、技術の基本の理解に加え、学生が単独で訪問看護ステーションのスタッフ並びに利用者との関係構築に必要なマナーの遵守やコミュニケーションスキルの習得を目指して行われる。しかし、教員は訪問看護に同行できず、直接の指導は不可能な状況にある⁴⁾ため、授業方法の役立ちの評価と学生の実習における学習の自己評価の必要性があるといえる。看護職養成教育機関における自己点検・評価について舟島らは、「教育の直接的経験者である学生を評価主体とする評価が必要不可欠である⁵⁾」としている。

在宅看護実習に関わる先行研究では、訪問看護ステーションにおける学生自身の体験の振り返りや学びの評価から実習内容の課題を検討したものがほとんどであり、学生による授業改善に関わる調査をもとに実習の授業方法の評価と課題を捉えたものはみられなかった。

本学科における在宅看護論実習（以下「実習」とする）は、在宅生活を送りながら療養する病人とその家族（以下対象者とする）の健康に関わる課題と支援について学ぶことをとおして、地域における看護職者の役割機能への理解を深めることを目的とし、対象者への個別的看護過程を学ぶことのできる訪問看護を中核に据えている。実習では、3年次に学生1名ずつを本学近隣の訪問看護ステーションに配置し、スタッフの情報交換や他機関との連絡・調整、利用者の家庭において展開される個別ニーズに即した看護ケアやコミュニケーションのあり様等を見学して在宅看護の基礎を学んでいる。事前準備として訪問看護の利用者から見学実習を受け入れられるよう、訪問看護ステーションのスタッフ並びに利用者との関係構築に必要なマナーや態度の遵守に関わる留意点の確認を行う。その上で、実習目標を達成できるよう対象者への看護ケアの知識・技術などの主体的な学びを促してい

る。これら一連の実習の授業方法が学生にとってより効果的なものとなるよう課題を捉え、必要な改善点を見出すことを目的に、学生への授業改善アンケートを実施したのでここに報告する。

用語の定義

本研究において次のように定義する。授業方法とは、実習目標を達成するための実習に関わる事前オリエンテーション、訪問看護ステーション実習、グループワーク、個別ワークをいう。利用者とは、医療保険あるいは介護保険により訪問看護を利用している療養者およびその家族をいう。

実習の概要

実習の目標（以下《 》に示す）は、(1)《地域における在宅看護の役割機能を述べることができる》、(2)《在宅看護の対象者の持つ健康課題を述べることができる》、(3)《在宅看護の対象者への援助の必要性を述べることができる》、(4)《在宅看護の対象者への援助の方法を述べることができる》、(5)《在宅看護の対象者に関わる関係機関の連携を述べることができる》、(6)《在宅看護の対象者の権利保障と倫理的配慮に基づいた援助ができる》、(7)《対象との人間関係成立と維持に必要な方法が習得できる》、(8)《在宅看護の対象者へのケア計画までの看護過程の展開ができる》とし、次のような内容で行っている（表1）。

なお、実習グループによって予め、A日程かB日程かが決まるのは、3年生のすべての領域にわたる実習配置の調整結果であることと、実習施設の受け入れ学生数が1名に制約されていることの事情を説明したうえで、A日程実習とB日程実習のそれぞれにおいて効果的な実習展開になるよう実習施設担当教員が必要なサポートを行っている。

事前オリエンテーション：予め学生と教員が実施日時を調整し、実習初日から概ね2～

表1 訪問看護ステーション実習の日程

A日程による実習

区 分	内 容
事前オリエンテーション (学内)	時刻は担当教員と学生の相談により決める。 1. オリエンテーション 実習に関わる詳細な留意事項を確認する 2. グループワーク ① 実習記録 (KOMI チャートを中心に) 方法を確認する ② 訪問看護演習 ③ 事前課題を見直し、訪問看護に必要な看護援助技術の要点を確認する
初日・2日目 (訪問看護ステーション)	身支度を整え集合・ステーションスタッフへの挨拶 オリエンテーション、見学実習
3日目(学内)	グループワーク、個別ワーク
4・5・6日目 (訪問看護ステーション)	見学実習
7日目 (訪問看護ステーション)	見学実習 実習終了後ステーションスタッフへの挨拶
8・9・10日目(学内)	事後課題学習 ① 訪問看護の対象者(療養者・家族)の生活の個別性を理解する ② 介護保険等の利用できる社会資源と関係職者との連携を理解する ③ 個別ワーク

B日程による実習

区 分	内 容
事前オリエンテーション (学内)	A日程と同様
1・2・3日目(学内)	事後課題学習 ① 訪問看護の対象者(療養者・家族)の生活の個別性を理解する ② 介護保険等の利用できる社会資源と関係職者との連携を理解する ③ 個別学習
4・5日目 (訪問看護ステーション)	身支度を整え集合・ステーションスタッフへの挨拶 オリエンテーション 見学実習
6日目(学内)	グループワーク、個別ワーク
7・8・9日目 (訪問看護ステーション)	見学実習
10日目 (訪問看護ステーション)	見学実習 実習終了後ステーションスタッフへの挨拶

3週間前に教員がグループ毎に行う。配付資料をもとに実習施設へのアクセス、持ち物、服装など詳細な実習における留意事項を説明する。対象者が初対面の学生を将来看護師になることの期待を込めて迎え入れていることを理解し、学生の学習意欲や真摯な姿勢が対

象者に伝わるような態度や身だしなみを整えられるよう指導する。併せて訪問看護にて使用されることのあるアネロイド型血圧計を用いた測定練習や、つなぎ寝間着の着脱などを学生間で実施する。

訪問看護ステーション実習：1日9時間、

6日間行う。目標(1)～(7)までを、予め学生の
実習について同意の得られた対象者への訪問
看護に同行し、見学実習する。対象者の主な
病態は認知症、神経難病、がん、老衰等であり、
世帯構成は高齢世帯、核家族世帯独居・
日中独居世帯等と多様である。1日4件～5
件、延べ20件～25件の対象者宅を訪問し、チェ
ックリストを用いて、学びの評価を行う。目標
(8)については、実習期間中に訪問した対象者
のうち1事例についてKOMI記録チャート⁶⁾
を用いた記録様式に基づき情報収集、アセス
メント、看護ケアの目標、目標毎のケア計画
を作成し評価する。

グループワーク：原則として、訪問看護ス
テーション実習を2日間経過した後に学内で
行う。学生間の学びの共有化を図ることや、
実習における各学生の学習課題を明確化する
ことを目指し、90分程度話し合う。教員1名
が同席し、必要に応じてグループワークにお
ける課題や、メンバーの実習課題について助
言する。

個別ワーク：事前学習として学生個々が実
習目標に向け必要な基礎知識を記述学習する。
また、訪問看護ステーション実習終了後、事
例の情報整理、アセスメント、看護ケアの目
標、目標毎のケア計画の精練を図る。必要に
応じて教員が指導助言する。

以上の授業方法における指導教員と実習指
導者の役割については、分担表を作成し、学
生に周知している。

研究方法

1. 調査対象

平成23年度A短期大学看護学科において在
宅看護論実習を履修した3年生53名

2. 調査期間

平成23年5月～11月

3. 調査方法

4月の実習オリエンテーション時に本研究
の趣旨ならびに倫理的配慮を口頭にて説明し、

研究者が作成した無記名自記式質問紙(以下
アンケートとする)を配布した。各グループ
の実習終了後数週間以内に、教員のメールボ
ックスへの提出、もしくはグループ代表がグル
ープメンバーの協力者分を回収し教員に提出し
た。提出をもって調査協力の同意が得られた
ものとみなした。

4. 調査内容

学生が実習に向かう準備段階から、実習休
験、実習のまとめを行うまでの一連の授業方
法の各項目にどのような受け止めをしている
かを自由記述にて回答を求めた。

1) 授業方法上改善してほしい点

(1)事前オリエンテーション、(2)訪問看護ス
テーション実習、(3)グループワーク、(4)個別
ワーク、(5)その他

2) 学生の自己の振り返り

(1)事前オリエンテーション、(2)訪問看護ス
テーション実習、(3)グループワーク、(4)個別
ワーク、(5)その他

3) 実習で満足感を得たこと

4) 実習中やる気を起こさせたこと

5) つらかったこと・困ったこと

6) つらかったこと・困ったことの対処・対
策として行ったこと

5. 分析方法

各項目の記述を素に次のような手順により
分析した。①各質問への回答として意味がわ
かる最小の文脈を抽出した。②項目別に当該
文脈の意味内容を読み取りながら解釈しコー
ディングした。③②について類似性・相違性
に着目して分類しサブカテゴリーとした。④
③についてさらに相互の関連性を視点におき
抽象化をすすめ、授業方法の課題に関わるカ
テゴリーとした。分析の全過程において、共
同研究者全員が同意できるまで検討を繰り返
し、妥当性の確保に努めた。

6. 倫理的配慮

口頭にて、アンケートの提出は義務ではな
いこと、提出の有無あるいは記述内容によ

て実習の評価等に何ら影響しないこと、また、データの扱いについては、個人が特定されないよう配慮すること、本研究以外に使用しないこと、研究終了後にアンケートを破棄することを約束した。

結 果

配布数53, 回収数50(回収率94.3%), 有効回答50(有効回答率100%)であった。原文を「」, 分析結果について抽出されたカテゴリーを【】で表す。

1) 授業方法において改善してほしい点

在宅看護論実習の質問内容1) 授業方法上改善してほしい点の結果は次のとおりであった。

(1) 事前オリエンテーション(表2-1)

訪問看護ステーション実習の事前オリエンテーションでは、【実施時期の適正化】【実習の詳細な説明】【演習物品の充足】の3つのカテゴリーが抽出された。

実習前のオリエンテーションの日時については、「オリエンテーションの時期が早く(内容を)忘れてしまうことがあった」などから【実施時期の適正化】、「実習や記録の進め方、流れを具体的に教えてほしい」などから【実習の詳細な説明】、「血圧計を練習に借りられる数をそろえてほしい」などから【演習物品

の充足】が抽出された。

(2) 訪問看護ステーション実習(表2-2)

訪問看護ステーション実習では、【実習環境への配慮】【チェックリストの明確化】【学びの自己評価】の3つのカテゴリーが抽出された。

「実習期間の前半に学内学習日が設定されること(B日程 表1)に不利益を感じた」などから【実習環境への配慮】、「実習施設によるチェックリストの進め方が異なることに戸惑った」などから【チェックリストの明確化】、「積極的に学ぶ姿勢が必要だった」から【学びの自己評価】が抽出された。

(3) グループワーク(表2-3)

学内でのグループワークでは、【時期の設定】、【取り組み姿勢】の2つのカテゴリーが抽出された。

「実習を2日行ったあとでは話し合いが薄いと感じた」などからの【時期の設定】、「進め方や内容がわからなかった」などからの【取り組み姿勢】が抽出された。

(4) 個別ワーク(表2-4)

個別ワークについては、【学習環境の配慮】の1つのカテゴリーが抽出された。

「どの本が参考になるか教えてほしかった」などからの【学習環境の配慮】のカテゴリーが

表2-1 改善して欲しい点(事前オリエンテーション)

コード	サブカテゴリー	カテゴリー
実施日時の変更を希望する(3)	実習期間との間合いを考慮して実施期日を設定してほしい	実施時期の適正化
実習期間より早いため、内容を忘れる		
実施時刻が早い方がよい		
所要時間の予告がほしい		
所要時間が長い	実習時間の適正化を図ってほしい	
チェックリストの説明がほしかった(2)		
チェックリストの付けられない項目の扱いがわからない		
記録物の説明がほしかった		
実習の流れを教えて欲しい	実習のイメージ化を図ってほしい	
実習施設のイメージができない		
血圧計を練習に借りられる数をそろえてほしい	演習物品を必要数そろえてほしい	演習物品の充足

表 2-2 改善して欲しい点(訪問看護ステーション実習)

コード	サブカテゴリー	カテゴリー
他の系の実習後にステーション実習をしたかった(2)	実習配置の順序を考慮してほしい	実習環境への配慮
6日の実習が短く感じた		
実習期間中の前半に学内学習日が設定されることに不利益を感じた		
帰校日を多く設定してほしい		
担当教員とのコンタクトがいつとれるか分からず戸惑った		
ケアの際にマスクの必要性を感じた	マスク着用が必要	
実習施設によるチェックリストの進め方が異なることに戸惑った	チェックリストの基準を明確にしてほしい	チェックリストの明確化
チェックリストのチェック基準が不明だった(2)		
積極的に学ぶ姿勢が必要だった	学ぶ姿勢の自己評価	学びの自己評価

表 2-3 改善して欲しい点(グループワーク)

コード	サブカテゴリー	カテゴリー
実習期間中の2週目に行うのがよい	実習期間中の後半に設定してほしい	時期の設定
最終日に行った方がよいと思う		
実習を2日行ったあとでは話し合いが薄いと感じた(2)		
進め方や内容がわからなかった(2)	実施方法を指示してほしい	取り組み姿勢
何をするか指示してほしい		
司会と書記を決めることに時間がかかった(3)	グループメンバーの準備不足	

表 2-4 改善して欲しい点(個別ワーク)

コード	サブカテゴリー	カテゴリー
参考資料や参考書を教えてほしい(3)	参考資料を提示してほしい	学習環境の配慮
記録用紙の枠が広くほしい(2)	実習記録用紙を改善してほしい	
実習時期は後半を希望	実習配置の順序を考慮してほしい	
ケア実習前の学内学習の目的が不明確		

抽出された。

2) 学生自身の振り返り

一連の実習展開における質問内容2) 学生の自己の振り返りの結果は次のとおりであった。

(1) 事前オリエンテーション(表 3-1)

学内での事前オリエンテーションについては、【取り組み姿勢】【学習行動】【学び】【実習に向けての気持ち】【実習方法】【総合評価】の6つのカテゴリーが抽出された。

「しっかりと実習の確認を行う気持ちを持って取り組めた」などから【取り組み姿勢】、「説

明を聞きながら大切なことはメモを取った」「わからないことを質問できると良かった」「家でも見返して確認することができた」などから【学習行動】、「血圧測定の練習を行ったことにより、訪問先で戸惑うことなくできた」などから【学び】、「実習に向けての心構えができた」などから【実習に向けての気持ち】、「実習の直前に行ったので忘れず実習に生かされた」などから【実習方法】、「ポイントを絞っての説明だったので理解し実習に臨むことができた」などから【総合評価】が抽出された。

表3-1 学生の自己の振り返り(事前オリエンテーション)

コード	サブカテゴリー	カテゴリー	
積極的に参加できた	積極的に参加できた	取り組み姿勢	
主体的に参加できた	主体的に参加できた		
実習の確認を行う気持ちをもって取り組めた 実習に取り組む気持ちで行えた	準備をする気持ちで取り組めた		
時間に集合することができた	時間を守ることができた	学習行動	
しっかり説明を聞くことができた	説明を聞くことができた		
メモをとることができた(5)	メモをとることができた		
要項・ファイルを忘れてしまった	要項・ファイルを持ってくる必要があった		
わからないことを質問できるとよかった(3)	質問する必要があった		
メモをしっかりとればよかった	メモをとる必要があった		
事前に配布プリントを見てから臨めば理解しやすかったと思う	事前にプリントを見ておく必要があった		
不安を話せるとよかった	不安を話せるとよかった		
すぐに反応できるようにしたい	すぐに反応できるようにしたい		
実習前に家で見返すことができた	家で見返すことができた		
実習前にグループメンバーに聞いて確認することができた	グループメンバーに聞いて確認することができた		
実習前にメモを見返すと忘れなかったと思った	見返す必要があった		
実習前にグループメンバーに声をかけておくと忘れなかったと思った	グループメンバーと助け合う必要があった		
実習のイメージができた(3)	実習のイメージができた		学び
実習に向けての準備ができた(2) わからないことが解決できた(2) 自己課題が見つけれられた	実習の準備ができた		
血圧測定の練習を行い実際に困らずにすんだ(5) 血圧測定ができてよかった(5)	血圧測定の練習で実際に困らずにできた		
血圧計の仕組みがわかった	血圧計の仕組みがわかった		
つなぎ寝衣の着脱法を行ったので実習で困らずにすんだ(5)	つなぎ寝衣の着脱法の練習ができた		
具体的にイメージできなかった	具体的にイメージできなかった		
実習に臨む気持ちを高められた(2) 実習にむけて心構えができた(2) チェックリストについて積極的にお願いする気持ちになれた 不安が減った(3) 緊張がほぐれた	実習に前向きな気持ちを高められた	実習に向けての気持ち	
積極性が大事と聞いたので、不安を強く抱いた	不安を強く抱いた		
直前に行くことで内容を忘れずに実習に活かした	直前に行くことで内容を忘れずに実習に生かした	実習方法	
グループで行うことで再確認できた	グループで行うことで再確認できた		
ポイントを絞っての説明だったので、理解しやすかった わかりやすかった	理解しやすかった	総合評価	

表3-2 学生の自己の振り返り（訪問看護ステーション）

コード	サブカテゴリー	カテゴリー	
1人で不安であった、緊張した(8)	不安・緊張を感じた	実習に向かう気持ち	
1人で行動することが恐かった	恐さを感じた		
最初緊張したがだんだん実習が楽しくなった(4) 1人で行くことに緊張し、戸惑いが多かったが、徐々に受け入れてもらい嬉しかった	不安・緊張から状況への適応していった		
楽しく実習を行うことができた	楽しく実習できた	取り組み姿勢	
積極的に行動できた(3) 徐々に積極的に取り組めた	積極的に実習できた		
自主的に進めることができた(2)	自主的に実習できた		
学ぶ姿勢をもって取り組めた	学ぶ姿勢をもって実習できた		
目的・目標をもって実習に取り組めた(2)	目的・目標をもって実習できた		
責任感をもって取り組めた	責任感をもって実習できた		
当初は積極性と戸惑いが混在していたが、その後積極的になれた	当初は積極性と戸惑いが混在していたが、その後積極的になれた		
積極的にできればよかった(4)	積極的に実習に取り組むべきであった		
休まず実習に行けた(3) 時間に気をつけられた	実習時間を守れた		学習行動
チェックリストを進めることができた(2) チェックリストを活用できた(2)	チェックリストに取り組めた		
わからないことを指導者に質問できた(4)	指導者に質問できた		
整理して伝え、訪ねるよう心がけた(2)	内容の整理をして指導者と話すようにした		
看護技術提供の手伝いできた(4) 根拠を持ってケアに加わることができた 最初は手を出せなかったが、徐々に手を出せるようになった	ケアに取り組めた		
利用者とのコミュニケーションがとれた(2)	利用者とのコミュニケーションがとれた		
チェックリストを自分から言い出せなかった	チェックリストに取り組めなかった		
質問できればよかった(3)	質問ができればよかった		
バイタルをさせてもらえばよかった	バイタルをさせてもらえばよかった		
バイタルサイン測定の練習をしておくべきであった	バイタルサインの練習をしておくべきだった		
施設のカンファレンスを聞けていないことがあり反省した	施設のカンファレンスを聞けていないことがあり反省した		
訪問は、毎日が発見だった	訪問は、毎日が発見だった	感動	
訪問は、毎日が学びだった	訪問は、毎日が学びだった		
様々な家に訪問させてもらえた(3) 様々な生活背景がみることができた(2)	様々な生活が見られた	学び	
訪問看護の実際を学ぶことができた(2) 実際の援助を見て、イメージができた	訪問看護の実際を学べた		
机上学習と実習での体験を統合させることができた(2)	訪問看護の理論と実際の統合ができた		
訪問看護は在宅で療養する本人・家族に大切であることがわかった(2)	訪問看護の必要性がわかった		

訪問看護師の役割を知ることができた(3) 訪問看護師の視点・配慮を知ることができた	在宅看護・訪問看護の役割が学べた	
家族看護を考えられた	家族看護を考えられた	
ケアはそれぞれの方にあうように行われていた(3) ケアの技術的工夫を学べた(4) ケアが根拠を持って行われていることがわかった	訪問看護の技術が学べた	
訪問看護師間の連携を知ることができた	訪問看護師間の連携が学べた	
コミュニケーションを学べた	コミュニケーションを学べた	
実習指導者と1対1の指導で深く学べた	実習指導者と1対1の指導で深く学べた	実習方法
実習指導者が1人に決まっていなかったので、スタッフ皆と話せた	スタッフ皆から学べた	
スタッフと一日行動を共にすることで学べた	スタッフと一日行動を共にすることで学べた	
見学実習であることで、看護師と利用者との関わりをみることができた	見学実習であることで、看護師と利用者との関わりをみることができた	
挨拶がしっかりできた(2)	挨拶ができた	マナー
言葉遣いを考え直すことができた	言葉遣いを考え直すことができた	
身だしなみに気をつけられた	身だしなみに気をつけられた	
礼儀正しく振る舞えた(5) 失礼のない態度に心がけることができた(5)	礼儀正しい行動に心がけた	
自分の力を高めることができた	自分の力を高めることができた	自己成長
慣れてくると質問するとアドバイスもらえることがわかり自信につながった 思いやりを学べた	自信がもてた 思いやりを学べた	
スタッフの心遣いで安心できた スタッフがやさしく接してくれた(4)	スタッフが安心できるよう心遣いしてくれた	スタッフの関わり
スタッフがわかりやすく指導してくれた(2)	スタッフがわかりやすく指導してくれた	
訪問看護師の話が興味深かった	訪問看護師の話が興味深かった	訪問看護師への関心
病棟経験後に在宅実習に臨みたかった(3)	実習の順番に配慮してほしい	実習配置への要望
充実した実習であった(4) よい実習となった	充実した実習であった	総合評価
多くの学びがあった(2) 学びの深い実習となった	学びのある実習であった	
勉強になった(2)	勉強になった	

(2) 訪問看護ステーション実習(表3-2)

6日にわたる訪問看護ステーション実習については、【実習に向かう気持ち】【取り組み姿勢】【学習行動】【感動】【学び】【実習方法】【マナー】【自己成長】【スタッフの関わり】【訪問看護師への関心】【実習配置への要望】【総合評価】の12のカテゴリーが抽出された。

「1人で行くことに緊張し、戸惑いが多かっ

たが徐々に受け入れてもらい嬉しかった」「指導者さん、看護師さんが親切にしてくださいだったので不安はなくなっていった」などから【実習に向かう気持ち】、「後半に向けて環境にも慣れ、質問をして自分の考えを伝えれば様々なアドバイスをもらえ、積極的に取り組めたとする」などから【取り組み姿勢】、「見学が主だったが、手伝えることは手伝わ

表 3-3 学生の自己の振り返り（グループワーク）

コード	サブカテゴリー	カテゴリー	
積極的にできた (4)	積極的にできた	取り組み姿勢	
意見をまとめてなかったの、上手く伝えられなかった	意見をまとめてなかったの、上手く伝えられなかった	事前準備	
カンファレンスの目的を事前に確認しておくべきであった	目的を確認しておくべきだった		
スムーズに進められるとよかった カンファレンスはグループ全員で作りに上げていくべきである メンバーシップを発揮すべきであった 記録は意見をまとめて、誤字脱字なく書きたい	グループワークの役割の準備しておくべきであった		
自分の意見が言えた (12)	自分の意見が言えた	学習行動	
話すことで整理することができた (2) 話すことで自分の目標を明確にすることができた	話すことで整理ができた		
アドバイスをもらうことができた	アドバイスをもらうことができた		
グループメンバーの意見を聞いた (7)	グループメンバーの意見を聞いた		
メンバーの発言について質問できた 意見が言えた	メンバーの発言について反応できた		
意見の交換ができた (4)	意見の交換ができた		
感じたことを共有できた (3)	感じたことを共有できた		
自分では気付かなかったことに気付くことができた (10) 他のメンバーの意見を参考にできた (3) 違った見方を知ることができた (4)	新たな気づきがあった	学び	
自らの考えを深めることができた	自らの考えを深めることができた		
今後の課題を見いだすことができた (2)	今後の課題を見いだすことができた		
少人数で話を膨らませることがむずかしかった	少人数で話を膨らませることがむずかしかった		
他のステーションの様子がわかった (16)	他のステーションの様子がわかった		
家族との関わり方の様子がわかった	家族との関わり方の様子がわかった		
いろいろな視点で在宅看護を捉えられた	在宅看護が学べた		
訪問看護師の役割を学べた (2)	訪問看護師の役割を学べた		
連携の大切さを学べた	連携の大切さを学べた		
よい学びになった (2) 学びが深まった	学びのある実習であった		総合評価
有意義な時間であった	有意義な時間であった		
実習に新たな視点を入れて取り組めた (2)	実習に新たな視点を入れて取り組めた		
実習に明確な目標ができた	実習に明確な目標ができた		

せてもらい、指導者さんに質問もでき説明もしてくれたので理解を深めることができた」などから【学習行動】、「日々を追うごとだんだんと実習が楽しくなって毎日が新しい発見と学びだった」などから【感動】、「在宅という

限られた物品の中で行うケアが学べた」「看護師さんはステーションにいる普段から療養者さんの状態について報告しあっていることを知ることができた」などから【学び】、「実習指導者と1対1の指導で深く学べた」など

表3-4-1 学生の自己の振り返り(事前学習の個別ワーク)

コード	サブカテゴリー	カテゴリー
再度読み返し学習することができた(3)	再度学習することができた	学習行動
事前学習を行ったので指導者からの質問に答えることができた	指導者からの質問に答えることができた	
グループメンバーと行うことで、いろいろなことに気づけた	グループメンバーと行うことで、いろいろなことに気づけた	
グループメンバーと行うことで、前向きに進められた	グループメンバーと行うことで、前向きに進められた	
調べるだけで終わってしまわないように、理解できるまで行うようにしたい	理解できるまで行うようにしたい	
チェックリストの量が多く大変だった	チェックリストの量が多く大変だった	学習課題
実際行ってみないと知識として定着しない	実際行ってみないと知識として定着しない	
他の実習の事前学習につなげられた	他の実習の事前学習につなげられた	他の実習への応用
しっかりできた	しっかりできた	総合評価

から【実習方法】、「家庭に訪問するので、失礼のない態度を心がけることができた」などから【マナー】、「在宅の実習では、根拠をもってケアに加わることができ、自分の力を高めることができた」などから【自己成長】、「スタッフの方が優しく丁寧に説明してくれ安心して実習に臨めた」などから【スタッフの関わり】、「看護師さんの話も興味深く、楽しく実習を行うことができた」などから【訪問看護師への関心】、「病院での実習を体験してから在宅の実習に臨んでみたかった」から【実習配置への要望】、「今までの看護とは違った看護を経験でき、とても勉強になった」などから【総合評価】が抽出された。

(3) グループワーク(表3-3)

学内でのグループワークを実施しての振り返りとして【取り組み姿勢】【事前準備】【学習行動】【学び】【総合評価】の5つのカテゴリーが抽出された。

「積極的に意見交換ができてよかった」などから【取り組み姿勢】、「グループメンバー全員でカンファレンスを作り上げていくべきだと感じた」などから【事前準備】、「メンバーの話聞くことができ、他の意見を聞いたことで視野が広がった」などから【学習行動】、「いろいろな意見を出し合うことで自分では

考えていなかった意見を聞くことができても良かった」などから【学び】、「しっかり自分の意見を言えし、他の人の意見を聞けたので学びが深まった」などから【総合評価】が抽出された。

(4) 個別ワーク(表3-4-1, 表3-4-2)

実習に必要な知識を整理する個別の事前学習(以下事前学習の個別ワークとする)については、【学習行動】【学習課題】【他の実習への応用】【総合評価】の4つのカテゴリーが抽出された。

「再度読み直すことで、テキストを写したのではなく、より理解出来るように追加できた」などから【学習行動】、「実際にやってみないと知識として定着しないと感じた」などから【学習課題】、「他の実習の事前学習にもつなげられる部分が沢山あった」から【他の実習への応用】、「事前学習など必要なことをしっかりとできた」から【総合評価】が抽出された。

また、訪問した利用者1事例について、ケアプランをたてるという個別の課題学習(以下ケアプランの個別ワークとする)については、【目指すもの】【取り組み姿勢】【学習行動】【学び】【教員の関わり】の5つのカテゴリーが抽出された。

表 3-4-2 学生の自己の振り返り（ケアプランの個別ワーク）

コード	サブカテゴリー	カテゴリー
個別性のあるプランを立てたい	個別性のあるプランを立てたい	目指すもの
集中してできた	集中してできた	取り組み姿勢
わからないことを調べることができた	わからないことを調べることができた	学習行動
情報の整理を行うことができた	情報の整理を行うことができた	
グループメンバーと相談しながらできた(5)	グループメンバーと相談しながらできた	
記録の書き方がわからなかった	記録の書き方がわからなかった	
記録方法の工夫をしてみたかったができなかった	記録方法の工夫をしてみたかったができなかった	
利用者の理解を深めることができた	利用者の理解を深めることができた	学び
利用者の問題点をみつけ作成できた	利用者の問題点をみつけ作成できた	
在宅ならではの幅広い視点での情報・知識が大切である	在宅ならではの幅広い視点での情報・知識が大切である	
教員に質問できた(2)	教員に質問できた	教員の関わり
教員がわからないことを指導してくれた 教員に見てもらいながら進められた	教員がわからないことを指導してくれた	
教員に指導してもらい、安心して進められた	教員に指導してもらい、安心して進められた	
教員に一日の行動計画を伝えることで、時間配分を明確にできた	教員に一日の行動計画を伝えることで、時間配分を明確にできた	
教員にどのように質問してよいかわからなかった	教員にどのように質問してよいかわからなかった	

「自分ではわからないところは自分で調べて行い、それでもわからないことは友人と話し合いながら学習できた」などから【学習行動】、「在宅ならではのケアプランの立案には、療養者のこと、家族のこと、家の構造、社会資源など多くの面の情報や知識が大切だと思った」などから【学び】、「教員にプランの立て方のわからないところを質問することができた」などから【教員の関わり】が抽出された。

3) 実習で満足感を得たこと(表4)

質問内容3) 実習で満足感を得たことについては、【訪問看護の特徴の学び】【訪問看護における知識・技術の学び】【ケアの実践】【利用者との関わり】【取り組み姿勢】【スタッフの受け入れ】【教員の指導】【今後の看護への示唆】の8つのカテゴリーが抽出された。

「それぞれの家の生活や援助が見られ、在宅で療養する人のイメージができた」「療養者と家族が支え合い、一つとなって生活して

いける暖かさを知ることができた」などから【訪問看護の特徴の学び】、「スタッフから看護技術やコミュニケーション方法を学ぶことができた」などから【訪問看護における知識・技術の学び】、「バイタルチェックや排泄コントロールの補助を経験でき、だんだんスムーズにできるようになった」「見学するだけではなく、自分にもできることがありそれを行えた」「様々な疾患をもつ療養者のケアを見学でき、療養者の思いを聞いたり家族とも話しができた」などから【ケアの実践】、「学生が訪問し嬉しいよと言われた」「療養者さん達の幸せそうな表情を見ることができた」などから【利用者との関わり】、「日中独居の人に接したり、看護師が療養者から離れる時に近くにいることで学生なりの看護ができていると感じる」「タッチングや話し相手となることが自分の役割だと思い実践できた」などから【取り組み姿勢】、「指導者と1対1で指

表4 実習で満足感を得たこと

コード	サブカテゴリ	カテゴリ	
訪問看護, 訪問看護師の役割を学ぶことができた (2)	訪問看護の役割を学ぶことができた	訪問看護の特徴の学び	
寄り添う看護のすばらしさを感じられた			
在宅訪問看護の実際を見ることができた (3)	訪問看護の実際を学ぶことができた		
利用者の思いをとて大切にした看護の原点を見ることができた			
訪問看護特有のことを説明してもらい体験ができた (3)	病棟の看護との違いを学べた		
在宅ならではの援助を多く見ることができた (2)			
病院では感じられないことを学べた			
自宅にあるものを使う工夫を学んだ (2)			
病棟と違い家族と関わり話が聞けた (2)			
在宅で療養する人のイメージができた	療養生活の実際を知ることができた		
療養者の生活を知ることが出来た (3)			
家族内での介護の実際を見られた			
家族の生活を知ることができた			
療養者と家族が支え合い, 1つとなって生活している姿を見られた			
看護師の的確な看護技術を学べた (2)	ケアの技術と根拠が学べた	訪問看護における知識・技術の学び	
複数の看護師の見学をすることで, それぞれの看護の違いを見ることができた			
様々な疾患のケアを見学できた (2)			
実際に行くことで観察から学べた			
事前学習のおかげで, 実習中にケアの意味に気づけた			
ケアの根拠を学べたこと (2)			
コミュニケーション方法を学べた			
褥瘡について学べた			病態が学べた
保険について学べた			保険制度が学べた
3年間の学びの振り返りが出来た			学びの振り返りができた
多くのケアに関わられた	ケアの実践ができた	ケアの実践	
指導者とケアに入ることができた			
看護師とケア入ることができたこと			
ケアの手伝いが出来た			
実施できるケアを行えたこと (3)			
バイタルサインの測定が出来た (4)			
バイタル測定が, 徐々にスムーズにできるようになった			
療養者とコミュニケーションがとれた (4)			
家族とのコミュニケーションがとれた (3)			
排泄コントロールの補助がだんだんスムーズにできるようになったこと			
日中独居の人のそばに居ることで, 学生なりの看護が出来ていると感じた			
療養者に「ありがとう」と言ってもらえた (3)	感謝の言葉	利用者との関わり	
療養者に「話し相手になってくれありがとう」と言ってもらえた			

ケアを行った後「ありがとう」と言われた		
家族に「ありがとう」と言ってもらえた(2)		
いつもは家族が介助に入る部分を学生が行い、家族に「ありがとう」と言われた		
「お疲れ様」と言われ、よいケアを行いたいと思った	ねぎらいの言葉	
学生が来てくれて嬉しいと言われた	喜びの反応	
療養者の幸せそうな表情が見られた		
療養者の笑顔で元気がもらえた		
家族の笑顔で元気がもらえた		
療養者との会話で元気がもらえた	療養者宅での会話	
家族との会話で元気がもらえた		
学生が訪問することを快く受け入れてくれた	利用者宅の反応	
多くの療養者と関わることができた	多くの訪問ができた	
多くの利用者宅に訪問できた(2)		
自分から積極的に動くことが出来た	積極的に実習に取り組めた	取り組み姿勢
指導者さんに質問されたことを覚えられた		
看護師の質問に答えられた		
自分の出来ることに気づき実践できた	自主性を持ってに実習に取り組めた	
1人での実習で自主性を意識して取り組めた		
1人での実習で責任感を意識して取り組めた		
限られた時間の中で情報を取ることができた	短時間での情報収集	
指導者の指導で安心し実習に臨めた	指導者の指導	スタッフの受け入れ
指導者に分からないことがあればすぐに聞くことができた		
指導者が新しいことを教えてくれたこと		
訪問後に看護師が詳しく説明してくれた	スタッフの対応	
車の移動中、質問することができた		
車の移動中、スタッフに多くのケースについて聞くことができた		
車の移動中、看護師とたくさん話せた	スタッフとの関係性	
看護師の思いや考えを聞くことができた		
実習中に看護師との距離が縮まった		
担当教員の指導で安心し実習に臨めた	教員の指導で安心できた	教員の指導
今後の看護につながるきっかけを見いだせた	今後の看護につながる	今後の看護への示唆

導が受けられるのでわからないことをすぐに聞くことができた」「訪問だけではわからなかったことや、看護師さんの思いや考えを聞くことができた」などから【スタッフの受け入れ】、「担当教員の指導で安心し実習に臨めた」から【教員の指導】、「今後の看護につながるきっかけを見いだせた」から【今後の看護への示唆】が抽出された。

4) 実習中やる気を起こさせたこと(表5)

質問内容4) 実習中やる気を起こさせたこと

については、【利用者からの反応】【ケア実践からの学び】【実習課題】【スタッフの対応】【グループメンバーの存在】【教員の指導】【気分転換】の7つのカテゴリーが抽出された。

「利用者が『頑張ってるね、自分も頑張る』と励ましてくれた」「握手をしたり、手を振ってくれたことで人の温かさを感じた」などから【利用者からの反応】、「学生を信じてバイタルチェックを実施させてくれた」「療養者の状況や実際の処置を見ると学習しなければ

表5 実習中やる気を起こさせたこと

コード	サブカテゴリー	カテゴリー
療養者さんに「頑張って自分も頑張る」と励ましてくれたこと (7)	利用者宅での励ましの言葉	利用者からの反応
療養者に「良い看護師になってね」と言われたこと		
家族に「頑張ってね」と励まされたこと (10)		
笑顔で利用者宅で迎えてくれた		
利用者宅で「ありがとう」と言われたこと (10)	利用者宅での感謝の言葉	利用者宅での反応
療養者さんに学生がきて喜ばれたこと		
療養者が嬉しい言葉をかけてくれたこと		
療養者の笑顔 (5)		
家族の笑顔		
療養者さんの握手 (2)		
家族との会話		
利用者宅での暖かい迎え入れ (3)		
療養者さんが顔や名前を覚えてくれたこと (2)		
療養者と一緒に歌を歌うと「嬉しい」と泣いて喜んでくれたこと		
訪問するたびに歌を歌ってくれる療養者がいたこと		
看護師のケアに対し、療養者が「気持ちいいなあ」と言っている姿を見た時		
療養者が自力で何かをする姿が見られた時		
「看護師さんがいるから安心して家に戻ってこられる」と言っていた家族のお話		
援助に参加させてもらえたこと (4)	看護技術の実施	
何度か練習した後、学生を信じてバイタル測定を実施させてくれたこと (2)	実習の場で学習の必要性を感じたこと	
血糖測定を実施させてくれたこと		
うまくコミュニケーションがとれたこと		
訪問先の現状から、学習の必要性を感じた		
介護者の安心した顔や笑顔を見て、どうやったら介護者の力になれるのか、技術・知識面においてもっと勉強しようと感じたこと	記録量が適量	実習課題
ケアのやり方や説明を受けて新しい発見や学びがあった時		
療養者・家族に対する看護師の関わり		
チェックリスト以外の質問に、うまく答えられなかったこと		
他の実習と比べ記録が少ない	実習施設での優しい受け入れ姿勢	スタッフの対応
記録が適度な量で睡眠が必要時間取れ、次の日元気に実習を行うことができた		
スタッフの気遣いと励ましがあったこと (12)	実習施設での学習サポート体制	
挨拶をした時など、ステーションの看護師さん全員が目を合わせてくれた		
スタッフが自分の質問に対し、丁寧に指導してくれた (2)		
スタッフが、ケアの最中も多くの質問をしてくれ、深めるべき部分を教えてくれたこと		
指導者が在宅看護の実際の話をくわしくしてくれたこと		
訪問後、感想を述べた際、看護師が丁寧に反応してくれたこと (2)		

前日に訪問先の情報がいただけたこと		
お昼のお弁当の時間	昼食の時間をスタッフと一緒に過ごせた	
昼食中に、スタッフの中に入れてくださったこと		
看護師が、挨拶や礼儀をほめてくれたこと	スタッフが自分を認めてくれた	
指導者が「よく勉強してきたね」と言ってくれたこと		
グループで励まし合ったこと	グループでの励まし	グループメンバーの存在
帰校日にグループで励まし合ったこと		
帰校日グループメンバーと話したこと		
帰校日のメンバーの進み具合	メンバーのがんばり	
帰校日グループメンバーと話し、みんながんばっていることがわかったこと		
教員が「大丈夫?」「何かあったら言って」と声をかけてくれたこと	教員のアドバイス	教員の指導
先生が詳しくアドバイスしてくれた(2)		
帰校日に教員が親身になってくれた		
担当教員からの指導		
気分転換ができたり、楽しみを見つけられたこと	気分転換	気分転換

と思った」などから【ケア実践からの学び】、「記録が適度な量で睡眠が必要時間取れ、次の日に元気に実習に行くことができた」などから【実習課題】、「スタッフが優しく話しかけてくれたり、頑張ってるねと言ってくれた」「学生が自分の考えやわからないことを伝えたとき、それ以上のことを教えてくれ、もっと学びたいと感じた」「『よく勉強してきたね』と言ってくれた」などから【スタッフの対応】、「帰校日にメンバーと『がんばろう』と言い合った」などから【グループメンバーの存在】が抽出された。

5) つらかったこと・困ったこと (表6-1)

質問内容5) つらかったこと・困ったこととしては、【負の心理状態】【実習方法】【学生自身の課題】の3つのカテゴリーが抽出された。

「終末期の療養者さんが苦しそうにしているも何もできなかった」などから【負の心理状態】、「学生が1人であるため自分で解決しなければならなかった」などから【実習方法】、「療養者さんとのコミュニケーションの取り方が難しかった」などから【学生自身の課題】が抽出された。

6) つらかったこと、困ったことの対処・対

策として行ったこと (表6-2)

質問内容6) つらかったこと・困ったことへの対処・対策としては、以下のような記述があった。サブカテゴリーを<>で表す。

【負の心理状態】の<不安感>に対しては、「帰校日やメールなどを利用して学生間で情報交換などをして対処した」という記述がある一方、「グループメンバーと一緒に実習の時はしなかったが、スタッフへ自ら声をかけた」など、1人(配置の)実習だからこそとった行動の記述も見られた。<無力感>に対しては、「ターミナルの利用者に対し、家族の思いを読み取ることにより、看護の役割を学ぶことができた」という記述と、「訴えに対し話を聞くことしかできなかった」と、訴えをどのように捉えたかの記述までには至っていないものがあった。

【実習方法】の<相談相手がいない>に対しては、「自分で考える」「スタッフに尋ねる」があり、【実習課題】の<見学実習>では、何をしてよいかわからず困った際に「必死で何をすればよいのか考え行った」などや、【学生自身の課題】の<看護技術の未熟さ>に対してコミュニケーションをとる場面では「スタッフにアドバイスをもらった」や「表情か

表6-1 つらかったこと・困ったこと

コード	サブカテゴリー	カテゴリー
一人実習のため不安だったこと(6)	不安感	負の心理状態
初日物品置き場がわからず不安だったこと		
療養者の苦しみに対し何もしてあげられないこと(2)	無力感	
「早く死にたい」という言葉にどう対応して良いか困ったこと		
過度な緊張	緊張	
初日に緊張したこと(2)		
1人になる時間がなかったこと(3)	拘束感	
療養者に対する家族の暴力	虐待の実態	実習方法
一人実習のため自分で行動しなければいけないこと(2)	相談相手がいない	
記録の書き方をすぐに教員に聞けなかったこと		
最終日の挨拶の際、会議中で声をかけるタイミングが難しかったこと		
プランの立案に困ったこと	記録の書き方がわからない	
記録の書き方がわからなかったこと(2)		
チェックリストの方法がよくわからなかったこと	チェックリスト	
スタッフへの質問の際、うまく表現できなかったこと		
どこまで介助に手を出して良いか悩んだこと(3)	見学実習	
処置の手伝いが無い時、必死にすることを考えたこと		
コミュニケーションがはかれなかったこと(2)	看護技術の未熟さ	
コミュニケーションの取り方が難しかったこと		
療養者さんといつ会話してよいかわからなかったこと		
受け持ち患者さんへの訪問回数が少なく情報収集が大変だったこと(2)		
血圧が上手く測れなかったこと		
利用者宅でのお茶の接待に対して断り方に悩んだこと		
車中でのチェックリストにより、車酔いしたこと	体調	
貧血になったこと		

ら読み取るようにした」「話しかけてくださった時、一生懸命思いを聞くよう心がけた」などがあった。

考 察

本研究の目的は、実習目標を達成するための実習の授業方法が学生にとってより効果的なものとなるよう課題を捉え、必要な改善点を見出すことであった。授業方法の事前オリエンテーション、訪問看護ステーション実習、グループワーク、個別ワークの各々について、学生によるアンケートの結果から得られた具体的な評価の意味と今後の課題について考察することとする。

1) 事前オリエンテーション

事前オリエンテーションは、学生が実習目標を再確認し訪問看護ステーションのスタッフや訪問看護の利用者と真摯に向き合いながら学ぶことがスムーズにできることをねらいとして実施している。調査内容2) 学生の自己の振り返りからは、「しっかりと実習の確認を行う気持ちを持って取り組めた」【取り組み姿勢】や「説明を聞きながらメモを取った」【学習行動】、のように実習に臨む学生側の主体的な学習活動を促したり、「血圧測定の練習を行ったことにより、訪問先で戸惑うことなくできた」【学び】や「実習に向けての心構えができた」【実習に向けての気持ち】、「実

表6-2 つらかったこと・困ったことへの対処

カテゴリー	サブカテゴリー	対処記述	対 処 策	対処策の分類	
負の心理状態	不安感(7)	あり(5) なし(2)	メンバーとのメールのやりとり	学生間のやりとりでの解決	
			メンバーとの対話		
			実習を終えた学生からの情報収集		
			責任を持った行動をとるよう心がけ、主体的に学んだ	自ら行動をとり解決	
			グループメンバーと一緒に時はしなかったがスタッフへ自ら声をかけた		
			深呼吸	工夫で解決	
			慣れた		
	スタッフが声をかけてくれた	他者が解決			
	無力感(3)	あり(2)	ターミナルの利用者に対し、家族の思いを読み取るにより、看護の役割を学ぶことができた	受容	
			訴えに対し話を聞くことしかできなかった		
緊張(3)	なし(3)				
拘束感(1)	なし(1)				
虐待の実態(2)	なし(1)				
実習方法	相談相手がいない(4)	あり(3)	自分で考える	自ら行動をとり解決	
		なし(1)	スタッフに尋ねる(2)		
	記録の書き方がわからない(3)	あり(3)	帰校日、教員に相談した	教員に尋ねて解決	
			帰校日、グループ内で相談した(2)	学生間のやりとりでの解決	
	チェックリスト(2)	あり(1) なし(1)	書き方の見本を見て、自分で考えた	自ら行動をとり解決	
			上手く言い出せなかったに対しては、自分から「お願いします」と言った	自ら行動をとり解決	
見学実習(4)	あり(4)	できることを判断して行った(3)	自ら行動をとり解決		
		必死で何をすればよいのか考え行った(1)			
学生自身の課題	看護技術の未熟さ(7)	コミュニケーションあり(3)	表情からの読み取りをはかった	自ら行動をとり解決	
			話しかけてくださった時、一生懸命思いを聞くよう心がけた		
			アドバイスをもらった		スタッフのアドバイスで解決
		血圧測定あり(1)	あり(1)	もう一度挑戦した	自ら行動をとり解決
				アドバイスをもらった	スタッフのアドバイスで解決
		接待への対応(1)	あり(1)	毎回試行錯誤した	自ら行動をとり解決
	情報収集なし(2)	なし(2)			
	体調(2)	あり(2)	睡眠時間の確保に心がけた	自ら行動をとり解決	
朝食摂取を心がけた					
とりあえず我慢した					

習の直前に行ったので忘れずに実習に生かした【実習方法】、「ポイントを絞っての説明だったので理解し実習に臨むことができた」【総合評価】のように実習に向けての動機づ

けにつながったことがわかる。

その一方で、調査内容1) 授業方法上改善して欲しいことの中には、「実習や記録の進め方、流れを具体的に教えてほしい」【実習

【詳細な説明】のように、学生によって具体的な実習の展開をイメージするには工夫の余地があることがわかった。実習体験に入る前にことばや文字媒体を用いて説明を受けることで実習の実態をイメージできることには、個人差がある。グループ全体への説明と学生への個別指導を工夫する必要があると考える。事前オリエンテーションの実施時期については、「オリエンテーションの時期が早く(内容を)忘れてしまうことがあった」【実施時期の適正化】のように、全領域の実習配置により事前オリエンテーションの後、実際に訪問看護ステーションに行くまでの間が長く空くグループがあった。その間に別の看護領域の実習に臨んでいる学生には事前学習や実習する訪問看護ステーションの下見をするなど実習に向かうまでの具体的な行動計画を作るなどの助言が必要である。

2) 訪問看護ステーション実習

学生は、6日間の訪問看護ステーション実習において多様な場面から実習目標に関わる事柄を学び満足感を得ていた。

調査内容3) 実習で満足を得たことの中の「それぞれの家の生活や援助が見られ、在宅で療養する人のイメージができた」「療養者と家族が支え合い、1つとなって生活していける暖かさを知ることができた」【訪問看護の特徴の学び】は、実習目標の《在宅看護の対象者の持つ健康課題を述べるができる》に、「スタッフから看護技術やコミュニケーション方法を学ぶことができた」【訪問看護における知識・技術の学び】や「バイタルチェックや排泄コントロールの補助を経験でき、だんだんスムーズにできるようになった」「様々な疾患をもつ療養者のケアを見学でき、療養者の思いを聞いたり家族とも話しができた」【ケアの実践】は、実習目標の《在宅看護の対象者への援助の必要性を述べるができる》《在宅看護の対象者への援助の方法を述べるができる》に、「学生が訪問し嬉しいよと言われ

た」「療養者さん達の幸せそうな表情を見ることができた」【利用者との関わり】は、実習目標の《対象との人間関係成立と維持に必要な方法が習得できる》にそれぞれ関連する学びであった。

調査内容2) 学生の自己の振り返りに挙げられた「在宅という限られた物品の中で行うケアが学べた」【学び】は、実習目標の《在宅看護の対象者への援助の方法を述べるができる》に、「看護師さんはステーションにいる普段から療養者さんの状態について報告しあっていることを知ることができた」【学び】は、実習目標の《在宅看護の対象者に関わる関係機関の連携を述べるができる》に、「家庭に訪問するので、失礼のない態度を心がけることができた」【マナー】は、実習目標の《在宅看護の対象者の権利保障と倫理的配慮に基づいた援助ができる》《対象との人間関係成立と維持に必要な方法が習得できる》に関わる体験であった。

これらから、訪問看護ステーション実習が原則として見学実習であっても村松⁷⁾が臨地実習の利点として述べている「関係者から生の声を聞くことができる」「在宅療養の実態を目の当たりにしてイメージしやすくなる」「生活の場で直接話したり手で触れて、在宅での看護を実感できる」体験を学生が得ることができたと考えられる。

このほかに、調査内容2) 学生の自己の振り返りに挙げられた「1人で行くことに緊張し戸惑いが多かったが徐々に受け入れてもらえて嬉しかった」【実習に向かう気持ち】、「後半に向けて環境にも慣れ、質問をして自分の考えを伝えれば様々なアドバイスをもらえ、積極的に取り組めたと思う」【取り組み姿勢】、「見学が主だったが手伝えることは手伝わせてもらい、指導者さんに質問もでき説明もしてくれたので理解を深めることができた」【学習行動】、「スタッフの方が優しく丁寧

フの関わり】にみられるように、学生が実習指導者をはじめとするスタッフとのコミュニケーションがとれたことにより、訪問看護や利用者に関わる情報を得たり、助言を受けて学びを深めることができていた。

また、調査内容5) つらかったこと・困ったこととして「学生が1人であるため自分で解決しなければならなかった」【実習方法】、「療養者さんとのコミュニケーションの取り方が難しかった」【学生自身の課題】、調査内容6) つらかったこと・困ったことの対処・対策のうちの＜不安感＞に対して「グループメンバーと一緒に実習の時はしなかったが、スタッフへ自ら声をかけた」など、1人配置の実習だからこそとった行動の記述や、＜見学実習＞では何をしてよいかわからず困った際に「必死で何をすればよいのか考え行った」などのようにその場で訪問看護師からアドバイスを受けたり、学生自身が何をすべきかを考え行動していた。

山田ら⁸⁾が「学生にとって、ほとんどの(在宅)療養者は初対面であり、慣れない実習施設は学生の緊張感を高める」と述べているように、1人で実習に臨む学生は、他領域の実習のように、不安なことやわからないことがあった場合でもグループメンバーに頼ることはできず、自ら対処しなければならないためにことさら緊張感を高くもって臨んでいると考えられる。そのため学生自ら指導者や、看護スタッフに話しかけ、それに対する助言や指導など対応を受けられた時にはひととき満足感を得ることができたと考えられる。さらに、調査項目4) 実習中やる気を起こさせたことの中の「利用者が、『頑張ってるね、自分も頑張る』と励ましてくれた」【利用者からの反応】のように、利用者との関わりの中から実習に対する意欲を高められるような場面を経験していた。

学生が1人で臨む実習での緊張感は避けたいが、指導者や、看護スタッフ、利用者との

コミュニケーションを介しての学びは学生自身に直接手応えとして受け止めることができることを踏まえ、事前オリエンテーションや実習期間の施設巡回、グループワーク、個別ワークなどの折々に、学生個々のコミュニケーション能力や実習体験の状況に応じた指導助言が必要であると考えられる。

調査内容1) 授業方法において改善してほしい点としてあげられた「実習期間の前半に学内学習日が設定されること(B日程表1)に不利益を感じた」【実習環境への配慮】に対しては、実習の前半に、行う学内での個人ワークの課題をさらに工夫する必要がある。また、学生が実習目標に関わる実習内容からの学びを指導者とともに確認するチェックリストについては、見学内容からの学習成果や見学回数の記録をとおして、学生が同行訪問した利用者への看護からの学びを捉え、体験できた学びを見学することが出来なかったメンバーとも共有するなどの主体的な学習行動を動機づけるツールとして活用できるようさらに具体的な指導が必要である。

3) グループワーク

グループワークは、訪問看護実習を原則として2日間経過した後に、訪問看護師の役割について学内で学生間内の共有化を図ることと、その後の実習における学習課題を明確化することを目的に行っている。

調査内容1) 授業方法において改善してほしい点としてあげられた「実習を2日間行ったあとでは話し合いが薄いと感じた」【時期の設定】といった意見があった一方、調査内容2) 学生の自己の振り返りの中では、「メンバーの話聞くことができ、他の意見を聞いたことで視野が広がった」【学習行動】、「いろいろな意見を出し合うことで自分では考えていなかった意見を聞くことができとても良かった」【学び】などから、1人配置の実習では学生個々が見学した事象を自分の視点からだけでなく、広い視点から捉えるきっかけ

として実習の早い時期にグループワークを行うことの意義は大きいと考える。グループワークを有意義なものにするには、調査内容1) 授業方法上改善してほしい点にあげられた「進め方や内容がわからなかった」【取り組み姿勢】や調査内容2) 学生自身の振り返りにあった「グループメンバー全員でカンファレンスを作り上げていくべきだと感じた」【事前準備】に見られるような、学生の準備不足や進行を他者任せにする状況を生まないようにメンバー1人ひとりがグループワークの目的を理解して参加し、主体性を持って発言することが必要である。そのための教員の働きかけとしては、学生のグループワークに対する動機づけを促すことや、調査内容2) 学生の自己の振り返りの「しっかり自分の意見を言え、他の人の意見を聞いたので学びが深まった」【総合評価】のように実習体験をメンバー相互に共有し、広い視野から学びとれるよう適時に助言を重ねることが大切であると考えられる。

4) 個別ワーク

個別ワークにおいて学生が取り組む課題には、事前学習の個別ワークと、ケアプランの個別ワークがある。

このうち事前学習の個別ワークとしては、調査内容2) 学生の自己の振り返りにあった「再度読み返すことで、テキストを写したのではなくより理解できるように追加できた」

【学習行動】、「他の実習の事前学習にもつながられる部分が沢山あった」【他の実習への応用】等という意見があったように、事前学習を行うことで、理解が深まり他の実習へ関連づけられる側面があったと考えられる。さらに、調査内容1) 授業方法上改善してほしい点として、「どの本が参考になるか教えてほしいかった」【学習環境の配慮】があがっており、課題提示の際に、学習を進める上で参考になる本・資料の例示をし、事前学習が実習でどのように生かされるのかを明確に示す

必要があると考える。

ケアプランの個別ワークでは、調査内容2) 学生の自己の振り返りにあった「自分ではわからないところは自分で調べて行い、それでもわからないことは友人と話し合いながら学習できた」【学習行動】とあることから、個別学習としての課題であるが、それに止まることなく実習グループダイナミクスを發揮して行われていることがわかった。これは学生が自主的に行ったものであり、学習の進め方の自由度をあげておくことのメリットであると考えられる。さらに調査内容2) 学生の自己の振り返り「在宅ならではのケアプランの立案には、療養者のこと、家族のこと、家の構造、社会資源など多くの面の情報や知識が大切だと思った」【学び】にあるように、普段病棟実習の中では気づきにくい、療養者の生活者としての側面、家族員としての側面が捉えられる機会となっていた。そしてそれらを総合的に捉えてケア計画をたてていくには、様々な情報を収集する必要があることに気付くことができていた。このことはまさに平成19年のカリキュラム改正で求める「地域で生活をしながら療養する人々とその家族を理解し、在宅での看護実践の基礎を学ぶ」ことの内容となっている。この学びが全ての学生の学びとなるように働きかけていきたい。

結 論

授業方法の事前オリエンテーション、訪問看護ステーション実習、グループワーク、個別ワークの各々における評価と課題からは次のことが考えられた。

1. 事前オリエンテーションは、実習に臨む学生の主体的な学習活動を促し実習に向けての動機づけにつながっているが、媒体を用いて説明を受けることで実習の実態をイメージできることには、個人差があるためグループ全体への説明と学生への個別指導を工夫する必要がある。

2. 訪問看護ステーション実習では、見学実習であっても臨地実習の利点としての体験を学生が得ることができ多様な場面から実習目標に関わる事柄を学び満足感を得ている。しかし、学生1人配置の実習であるため不安感や緊張感は避けがたく事前オリエンテーションや施設巡回、グループワーク、個別ワークなどの折々に、学生個々のコミュニケーション能力や実習体験の状況に応じた指導助言が必要である。
3. グループワークは、学生個々が見学した事象を自分の視点からだけでなく、広い視点から捉えるきっかけとして有意義である。メンバー1人ひとりがグループワークの目的を理解して参加し、主体性を持って発言できるよう助言を重ねることが大切である。
4. 個別ワークの事前学習では、学生の理解が深まり学習した内容を実習で体験することによって知識をより定着させ、他の実習へ関連づけられることが期待できる。事例の看護計画をたてる課題では、療養者の生活者としての様々な情報を収集する必要性や社会資源などの知識の大切さに気付くことができるよう働きかけることが大切である。

まとめ

今回行った学生による授業改善アンケートの結果から考えられた授業方法の課題および改善点については、指導教員と実習指導者が共通認識をはかり、学生が学習主体であることの自覚を持ちながら実習目標を達成できるよう教育上の研鑽を重ねていきたい。特に訪問看護ステーション実習では、学生が訪問看護の実際や療養者、家族の生活場面に接するなかで看護の技術や知識に関わる学びを深めるとともにコミュニケーション能力を養うことが出来るよう教員と実習指導者の連携がさらに重要となる。

研究の限界性と今後の課題

A日程B日程の違いで、どのような違いがあるのかは把握できなかった。また、アンケート項目のうち個別ワークの自己の振り返りについての表記方法が、どの範囲を記述するか捉えにくかったことから、学生の解釈に差違が生じ、授業方法のどの段階について記述されたものか判断できないものがあった。質問表記の改善を図る必要がある。

また、各実習目標における授業方略の効果について学生の評価を受けることも検討していきたい。

謝辞

アンケートにご協力くださいました学生の皆様に感謝致します。

文献

- 1) 厚生労働省：看護基礎教育の充実に関する検討会報告書2007厚生労働省ホームページ<<http://mhlw.go.jp>> (30 July. 2012).
- 2) 石垣和子：「在宅看護論」教育の推進に向けた調査研究報告，平成16年度木村看護教育振興財団補助事業，p.14, 2005.
- 3) 清水準一ほか：在宅看護論，医学書院，東京，2012，p.320.
- 4) 前掲 2)，p.8.
- 5) 舟島なをみ：看護学教育評価論，文光堂，東京，2002，p.100.
- 6) 金井一薫：KOMI記録システム KOMI理論で展開する記録様式，現代社，東京，2004，pp102-116.
- 7) 村松静子：在宅看護論，メジカルフレンド社，東京，2012，p.257.
- 8) 山田智美，牧原和子：在宅看護論実習の効果的な学習指導方法，日本看護学会論文集，地域看護，37，120-122，2006.